

平成26年度 認証評価を経験して

東京女子体育大学
学長 加茂佳子

学校法人の概要

- * 学校法人名 : 学校法人藤村学園
- * 設置大学等 : 東京女子体育大学
体育学部 体育学科
- : 東京女子体育短期大学
保健体育学科・児童教育学科
- * 所在地 : 東京都国立市富士見台四丁目30番地の1

東京女子体育大学の現況

* 学生数(平成27年5月1日現在) (単位:人)

学部	学科	入学定員	編入学定員	収容定員	在籍学生数				
					1年次	2年次	3年次	4年次	合計
体育	体育	300	40	1,280	386	386	397	399	1,568
							(36)	(25)	(61)

※(カッコ)内は、編入学生数(内数)

* 教員数

学部	学科	専任				兼任	非常勤	
		教授	准教授	講師	計			
体育	体育	男	14	5	6	25	8	7
		女	5	3	2	10	9	10
		計	19	8	8	35	17	17

* 職員数

区分	専任	嘱託	臨時
男	15	2	2
女	34	3	13
計	49	5	15

※教員数、職員数ともに、平成27年5月1日現在。(単位:人)

建学の精神

- * 心身ともに健全で、質素で誠実、
礼儀正しい女子体育指導者の育成

藤村トヨの教え



藤村トヨ

腰伸ばせ
立つ時にも
行く時にも
座しても
臥しても
思慮の時にも
運動の時にも
腰伸ばせ即腹の力

藤村トヨ

明治41年に本学園の前身である私立東京女子体操音楽学校の校長となる。
明治、大正、昭和時代を代表する体育指導者であり、
本学園の基礎を築かれ、女子体育指導者の育成に尽くしました。

教育スローガン

東女体の教育スローガン

本学園は「極・匠・伝・凜」の教育スローガンのもと、
社会や人類の発展に貢献する人材を育成する大学を目指しています。

極

技術力を磨く。動きが変わる。

東京女子体育大学・短期大学が目指すのは、“運動文化の発信基地”。
そのために求められるのは、実践者として十分な技術力を持つこと。
指導者の一言が能力を引き出し、より洗練された動きへと導きます。

匠

指導のプロと現場で学ぶ。

目の前にいる競技者にアドバイスを求められたとき、どうしたら動きが変わるかを的確に指摘できる指導者となるために。科学的な知識や理論に裏づけされた実践的な指導法を各分野の専門家から学びます。

伝

学び合い、教え合う。

お互いの考えから学び、創り上げていく経験を通してはじめて得ることができる力。児童教育の担い手として、子どもたちに「伝える」ことを大切にする。このプロセスが主体的に取り組む力を育てます。

凜

伝統が創る、空気をまとう。

「凜と立つ」意志のある眼差し、背筋の伸びた姿勢、ひときわ目を引く存在感。女子体育の先駆けとして100年以上の歴史を刻んできた東京女子体育大学・短期大学では、教育を通して思慮深く、高潔な人格形成を目指します。

本日のお話し

1. 学内の準備体制
2. 自己点検評価書の作成
3. 実地調査への対応
4. 大学独自基準の選定

実地調査日

* 平成26年10月27日(月)

～10月29日(水)

* ※但し、27日(月)は、評価員の移動日につき対応無し。

学内の準備体制①

* (1) 委員会の立ち上げ

* 名称: 大学第三者評価対応委員会

* 【委員会の構成】

* 委員長: 学長

* 委員: 常任理事 (LO 1名を含む) 3名

* 教員 (部館所長) 9名

* 職員 (各所管課長等) 13名

* 合計 26名

* ※事務所管: 総務課及び長期構想担当課長

学内の準備体制②

* (2) 委員会の位置づけ

- * 特別委員会(必要に応じ設置する委員会)として設置
- * 定例の自己点検・評価は評価委員会に対応

* (3) 委員会の開催

- * ・定例会(全体会)7回開催
- * ・自己点検評価書作成の進捗状況等に合わせて開催

自己点検評価書の作成①

* (1) 原稿の作成分担

- 作成分担は、あらかじめ、LOと事務局でたたき台を作成。
- 分担箇所は、細かく分けずに、各基準ごとに責任者を決めて、当該責任者の指示のもとに作成(責任の所在を明確に)

* (2) 自己点検評価書のページ割り付け

- 自己点検評価書は全体で100ページ以内。
- そのため、各基準ごとのページ数の目安を次の通り設定した。

自己点検評価書の作成②

- * 【ページ割り付け(目安)】
- * ○建学の精神、大学の基本理念、使命・目的、大学の個性・特色
→ 2ページ
- * ○沿革と現況 → 3ページ
- * ○基準1 使命・目的等 → 6ページ
- * ○基準2 学修と教授 →50ページ
- * ○基準3 経営・管理と財務 →20ページ
- * ○基準4 自己点検・評価 → 4ページ
- * ○基準A 大学が独自に設定した基準 →15ページ
- * ※基準2「学修と教授」が全体のほぼ半分を占める

自己点検評価書の作成③

* (3)原稿の作成・取りまとめ

- * ・分担原稿は、作成者から事務所管である総務課(長期構想担当課長)へメールで送り、事務所管が字句及び表現上の統一を図り、委員会で確認し、さらに加筆・修正を加える。
- ・この作業を繰り返して、原稿を整えていった。
- ・原稿の根拠となる、エビデンス集(資料編)は、10cmパイプファイルで2冊分となった。
- ・最終的に、自己点検評価書、エビデンス集(データ編)・(資料編)ほか、提出資料は、6月24日に評価機構へ郵送した。
(提出期限:6月30日)

実地調査への対応

* (1) 書面質問・依頼事項

* 8月21日(木)受領(メール)

* 書面質問66項目

* 依頼事項26項目

* 9月 4日(木)回答期限(2週間)

* ※実質的には10日ほどしかなく、この対応が時間との戦いとなった。

* 【回答】

* A4版用紙で23ページ。

* それに伴う提出資料は10cm厚パイプファイル1冊

実地調査当日のスケジュール

実地調査日：10月27日（月）～10月29日（水）

●移動日／10月27日（月）

●第1日／10月28日（火）

時間	事項
9:00～10:00（60分）	第2回評価員会議
10:00～11:00（60分）	評価員：資料点検
11:00～11:30（30分）	顔合わせ
11:30～12:30（60分）	昼食（学食）
12:30～14:00（90分）	大学責任者との面談（基準1の内容を含む）
14:00～15:30（90分）	教育環境の視察
15:30～16:00（30分）	評価員：資料点検
16:00～17:30（90分）	基準ごとの面談（基準2と基準3を別室で同時進行）
17:30～18:00	評価員：宿泊施設へ移動
18:00～20:00（120分）	第3回評価員会議（宿泊ホテルにて）

●第2日／10月29日（水）

時間	事項
9:00～9:30（30分）	評価員：資料点検
9:30～10:15（45分）	基準ごとの面談（基準4と基準Aを別室で同時進行）
10:15～11:00（45分）	教務補佐員との面談
11:00～12:00（60分）	学生との面談
12:00～13:00（60分）	昼食
13:00～14:30（90分）	第4回評価員会議
14:30	終了・解散

基準ごとの面談スケジュール及び対応者

大学責任者の方との面談(10/28・火)

	1号館3階 大会議室		備考
	評価員	大学側(役職)	
12:30 ～ 14:00	団 長 教育系 教育系 事務系	理事長 学長 理事 理事・LO 事務局長・理事 女子体育研究所長 総務課長 兼 地域交流センター事務室長 経理課長 長期構想担当課長	基準1の内容を含み、管理運営について責任者の方にお伺いしたい事項について、面談を実施

大学関係者と基準ごとの面談

1日目(10/28・火)

	ブースA(1号館3階 大会議室)		
	基準	評価員	大学側(役職)
16:00 ～ 17:30	2 学修と 教授	教育系 教育系	学長 理事 教務部長 学生部長 キャリア支援部長 図書館長 女子体育研究所長 地域交流センター所 長 入試委員長 広報委員長 管財課長 入試課長 広報課長 教務課長 教職課長 学生課長 キャリア支援課長 図書館課長代理

1日目(10/28・火)

	ブースB(1号館3階 中1・2会議室)		
	基準	評価員	大学側(役職)
16:00 ～ 17:30	3 経営・管理 と財務	団 長 事務系	理事・LO 事務局長・理事 総務課長 兼 地域交流セン ター事務室長 経理課長 新学生寮建設担当課長 長期構想担当課長

2日目(10/29・水)

	ブースB(1号館3階 中1・2会議室)		
	基準	評価員	大学側(役職)
9:30 ～ 10:15	A 地域社会と の連携協力 社会貢献	教育系 教育系	理事 地域交流センター所長 総務課長 兼 地域交流センター事務室長

2日目(10/29・水)

	ブースA(1号館3階 大会議室)		
	基準	評価員	大学側(役職)
9:30 ～ 10:15	4 自己点検・ 評価	団 長 事務系	学長 理事・LO 事務局長・理事 長期構想担当課長 総務係長

大学独自基準の選定

【独自基準】

* 「地域社会との連携協力・社会貢献」

本学は体育大学として、**スポーツを通して広く地域・社会に貢献**して、高い評価を得ているため、独自基準として「地域社会との連携協力・社会貢献」を選択した。

具体的には、「公開講座」の開講、「ジュニア・ユースクラブ」「定期レッスン」の実施、「学生のボランティア活動」を通して地域社会との連携・協力を図っている。

地域社会との連携協力 社会貢献

地域交流事業

[公開講座](#) | [ジュニア・ユースクラブ/定期レッスン](#) | [ボランティア派遣](#) | [問い合わせ](#)

公開講座

本学では、体育大学としての特色を生かして、地域の方々が楽しみながら学べる講座を開講しています。

各講座では、体育・スポーツ・教育の専門家である指導者の細やかな指導を受けたり、選手たちの修練されたプレーや動きに接したりすることができます。受講料無料で、だれでも気軽に参加できる講座が、平成27年度には年間23回開かれます。



☆ 公開講座の種類

- [幼児講座](#)
- [小学生講座](#)
- [高校生講座](#)
- [成人講座](#)
- [共通講座](#)
- [公開講座 申し込み方法](#)

公開講座

高等教育機関である大学には、教育・研究の成果を地域に還元することが求められています。本学では、体育大学としての特色を生かして、地域の方々が楽しみながら学べる公開講座を開講しています。

各講座では、体育・スポーツ・教育の専門家である指導者の細やかな指導を受けたり、選手達の修練されたプレーや動きに接したりすることができます。幼児から高齢者まで幅広い世代を対象に開講しています。今後も地域のスポーツ文化に発展に貢献できる企画を開催してまいりますので、ご期待ください。



幼児講座「歌遊びリズム遊び」



小学生講座「陸上競技①」(短距離)



小学生講座「陸上競技①」(投てき)



高校生講座「バレーボール」



成人講座「生活体力測定と転倒防止運動」



共通講座「かんたんカレンダーづくり」

地域社会との連携協力 社会貢献

ジュニア・ユースクラブ / 定期レッスン

本学では、体育大学としての特色を生かして、地域のお子様を対象に、新体操、ヒップホップ、サッカー、絵画を継続して学べるジュニア・ユースクラブや定期レッスンを開設しています。



☆ ジュニア・ユースクラブ(会員制)



■ 新体操クラブ



■ ヒップホップクラブ



■ サッカークラブ

☆ 定期レッスン(有料講座)

- 新体操 ■ ドローイング・ワークショップ

ジュニア・ユースクラブ

○新体操クラブ

キッズ(2歳児)～ジュニア、ユースクラス(高校生)まで、
現在170名の会員が在籍しており、レッスンでは様々なリズムの音楽で、
全身を使って体を動かします。新体操に大切な、柔軟性、基礎体力を身につけ、美しく、
しなやかな体作りを目指します。徒手運動の他に、ボールやリボン、フープなど色々な手具を使って動きを
覚えながら、技にも挑戦し、目標を持ってあきらめずに頑張る強い心を育てます。育成、選手コースも開設。
競技会や講習会、地域イベントへの参加も積極的に行っています。



ジュニア・ユースクラブ

○ヒップホップクラブ

踊ることが大好きな子どもたちが毎週楽しくレッスンに励んでいます。

ダンスは基礎体力アップや、リズム感、表現力などが身につく、成長過程での土台となる、筋力や

骨格が自然と育ちます。「踊る」ことの楽しさを子どもたちから知ることには成長過程でも大切なこと。



○サッカークラブ

小学生を対象にしたサッカー教室です。

来年度4月からは増設し2クラスを展開します。

たくさん子どもたちが元気いっぱいスポーツに集中できる。そんな環境づくりを行っています。

現役指導者、選手陣による本格的指導で、基礎から丁寧に練習を行います。子どもたちの健康な身体づくりの基礎となるスポーツライフを応援します。



おわりに





ご清聴ありがとうございました。